
下人の行方。？

wetafun

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

下人の行方。？

【Nコード】

N02750

【作者名】

w e t a f u n

【あらすじ】

下人の行方は誰も知らない…。

名作「羅生門」のその後。

下人は自分を解雇した主人を殺しに家に迫りますが…。

（前書き）

学校で書いてみた、芥川龍之介の名作「羅生門」のその後です。
せっかく書いたのでこっちにも転載してみました。

存じの通り、下人は引剥を犯して、羅生門から消えた。

その後、下人が向かったのは、四、五日前まで住み込んでいた場所。主人の家であり、下人の家跡だ。

下人はもう覚悟を決めていた。主人を押し倒し、衣を剥ぎ、そのついでに自分に暇を出した「礼」をしてやろうと、目を血走らせていた。

太刀を持って、下人は一時間前の自分よりも何倍も強さを増したかのように感じた。

下人は主人の家の門を叩いた。

しばらくして、出てきた人を太刀でおどした。

「やい、主はどこだ。」

下人は牛のように憤って、その人を押し倒した。

その時、下人は気づいた。

主人にも妻と子と女中がそれぞれ一人いたが、今押し倒した人はその内の誰でもなかった。

押し倒された人は下人の手を振りほどき、強気に出た。
彼も持っていた太刀を抜いた。

「私には主などいない。」

下人は急に受け身の体勢になった。

やはり下人には他人様に対して引剥きたいな態度はとれなかった。
しかし、せめて二つの疑問だけは解決しようとした。
この人は誰か、主人はどこか。

下人はなお、人を怖がらせる様な低い声を無理に出して言った。

「お前は誰だ。」

即座に返事が来た。

いかなる予想の斜め上に行く答えが。

「私は役人だ。この家の住人は昨日、一人残らず死んだ。」

主人が妻と子と女中を一人一人殺し、自らは首を吊ったという。

今で言う、無理心中だ。

下人は啞然として、太刀を床に落とした。

そして、下人の目に涙が浮かんできた。

長年、自らを使ってきた主人。悪いこともあったが、良いこともあった。

妻は下人に対して親切にしてくれたし、子は下人のにきびを度々触っていた。

「ところでお前は何者だ。」

下人は記憶の世界から現実の世界に引き戻された。

役人様を押し倒し、太刀を向けたのだ。どんな仕打ちを受けるやら。

下人は太刀をその場に残して逃げ出した。

一目散に家を出、暗い京を限界まで逃げ回った。
誰も下人など気にしていないのに。

下人はやがて立ち止まった。

あの羅生門の前で。

腰には老婆から剥いだ衣が巻かれていた。

返してやろうとも思ったのか、下人は楼の上に上がっていった。
さっきの通り、死骸がごろごろ転がっていたが、下人は怖くなどな

かった。

だが、肝心の老婆が見当たらない。

裸のまま帰ったのか。あの老婆に家などあるのか。
そんなことを考えながら、梯子を下りようとした時。

見つけた。

裸の老婆を。

冷たい床にごろごろ転がっていた。

裸の死骸と、着物を着た死骸。

女の死骸と男の死骸。

すべてが、土をこねて造った人形のように。

一人の男が、裸の女の死骸を見ていた。
ずっとずっと、いつまでも見ていた。

男は、右の頬にできた、大きなきびを右手で剥ぎ取った。

数年後、下人は死んだ。山で引剥をしてる最中だった。

ある者は川に流されたと言い、ある者は土砂崩れに巻き込まれたと言う。

またある者は牛車に轢き殺されたと言う。

はっきりとわかるのは、誰かが殺した訳では無いということだ。

それまた数年後。

京の町に変化が起きていた。

一つは、羅生門をはじめ、京の町に捨ててあった人の死骸がめつきり減ったということ。

そしてもう一つは、とある商人が大繁盛していたということ。
その商人は右の頬にきびを潰した跡があり、左の頬に大きなきびがある男だ。

商人が売るものは三つ。

丈夫な鬘。人骨並の丈夫さを誇る飾り。

そして、動物の肉だ。

そのあまりに不思議な味が評判を呼んでいるのだ。

ある者は牛だと言い、ある者は魚だと言う。

不思議なのは、味だけではない。

その肉は、雨の日も風の日も、飢饉の時だって、一日欠かさず売っている。

肉がどこから仕入れられているのかは誰も知らない。

（後書き）

いかがだったでしょうか。

ほとんど物語を都合よく作り変えたみたいになってますが、ご容赦ください。

また連載中の冒険小説「Saving Time Machine」の方もよろしくおねがいします。
では、さようなら。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0275o/>

下人の行方。？

2010年10月21日11時24分発行